

鎌倉山けんさうさん月輪寺げつりんじは愛宕あたごの山腹やまはらにあり。「鉄かねの鳥井とりゐより左へ下りて七十三町なり」当寺の本尊は十一面觀世音めんくわんぜおんを安置す、
祖師堂そしだうには空也上人くうやしやうにん、親鸞聖人しんらんしやうにん、月輪殿下の像あり。開基は慶俊法師けいしゆんはふし、中興は九条閑白太政大臣兼実公くどうくわんはくたしやうだいじんかねざねこうなり。「此地に
閑居し給ふ故月輪禪定つきわぜんぢやうと称す」

龍女水りうによすゐ〔空也上人くうやしやうにん此地に幽居し給ふ時、当山寒蟬ひぐらしのたまき灌くわんより龍女婦人りうによんなと化して顕れ、上人に妙経を授り、忽成仏す。其報恩
として後山の巖を穿しかば清泉涌出る、これを龍女水りうによすゐといふ。今に増減なし、所々へ笕にとりて当山の用水とす。傍に
龍女のやしろあり〕時雨桜しぐれざくら〔堂の前にあり。親鸞聖人しんらんしやうにん北国左遷の時、兼実公かねざねこう名残ををしみ給ひければ、自作の像を遺し
別れ給ふとき、此桜より時雨す。今も弥生の末にはしぐれたえずしけるとなん〕